

## 学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	小野間 正巳
2. 審査委員	主査：（兵庫教育大学教授）米田 豊 副主査：（兵庫教育大学教授）吉水 裕也 委員：（鳴門教育大学教授）梅津 正美 委員：（兵庫教育大学教授）難波 安彦 委員：（兵庫教育大学教授）森 秀樹
3. 論文題目 意志決定能力を育成する協働提案型小学校社会科授業モデルの開発研究 ～意志決定カテゴリーによる授業分析をとおして～	
4. 審査結果の要旨 <p>先端課題実践開発専攻先端課題実践開発連合講座 小野間 正巳 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：平成30年8月16日（木） 14：00～15：00          場所：兵庫教育大学 教育・言語・社会棟7階 702教室</p> <p>（1）学位論文の構成と概要</p> <p>本論文は、これまでの意志決定能力の育成を意図した社会科授業構成理論についての批判的検討を行い、その分析結果を基にして、意志決定能力を育てる「協働提案型社会科授業構成理論」を提案した。さらに、意志決定型社会科授業を対象に意志決定カテゴリーを視点としたGTMAとポートフォリオを加えた授業分析モデルを開発した。このモデルを用いて授業評価を行い、その結果を生かして協働提案型社会科授業構成理論の評価・改善を行った。本論文は、「第1部意志決定能力を育成する協働提案型社会科授業」及び授業理論による新たな授業構築を記した「第2部協働提案型社会科授業モデルによる授業と授業分析を生かした授業の再構築」で構成されている。</p> <p>序章 本研究の意義と方法</p> <p>本論文の意義は、公民として社会的問題に対して価値判断・意志決定できる能力を育てる新たな社会科授業構成論を授業分析モデルによる評価を方法として提案したことである。</p>	

## 第1部 意志決定能力を育成する協働提案型社会科授業

### 第1章 意志決定能力の育成を意図した社会科授業構成理論

これまでに報告された意志決定能力の育成を意図した社会科授業構成理論について文献検索を行いそれらの文献を対象として、意志決定能力の育成の成否についての分析を行った。この分析結果を用いて、社会科授業構成理論の成果をまとめた。さらに、問題点を整理し、今後の意志決定型社会科授業構成理論構築に向けた課題を明らかにした。

### 第2章 意志決定能力を育てる協働提案型社会科授業構成理論

これまで、社会問題について、児童が学習した内容や結果から政策について提案するという学習形態は多く用いられ授業において活用されてきた。情報量が多く、複雑で、日々高度で専門的な内容となっていく現代の社会問題を、児童が理解し、共に学びながら知恵を出し合って協働で解決していく学習「協働提案型社会科授業」を提案した。この学習の意志決定スキルについて、その内容及び定義、内容・方法・展開、授業方略を示した。

### 第3章 協働提案型社会科授業を創造する授業評価理論

これまでに数多くの意志決定型社会科授業が実践され、数多くの授業構成理論が提案されてきた。しかし、提案された授業において、授業構成理論において育つと考えられる意志決定スキルが、果たして身に付いているのか、提起した構成理論で育つ社会認識が育ったのかについての検証がなされているとはいえないのが現状である。また、これまでも、社会科教育を対象とした授業分析は行われてきた。しかし、十分に客観的な分析資料に基づいて論じられたとはいえなかった。そこで、授業分析を行うにあたり、分析の視点として「意志決定カテゴリー」を用いた。意志決定カテゴリーとは「価値判断・未来予測をする基盤となる“価値認識”を上位とし、それを支える個々の社会事象に対する価値を下位とする概念の集合体である」と定義した。そして、社会学において行われ、質的・量的の両方の利点を生かした混合研究法である GTMA(Grounded Text Mining Approach)を援用した分析とポートフォリオ分析、会話分析を用いることで新たな社会科授業の授業分析方法を提案し、その方法について論じた。

## 第2部 協働提案型社会科授業モデルによる授業と授業分析を生かした授業の再構築

### 第4章 協働提案型社会科授業モデルによる授業の授業分析

第1節で小学校第3学年「いろいろなお店たんけんたい～お店のひみつをさがろう～」、第2節で小学校第5学年「これからの食料生産～食料輸入のあり方について考える～」、第3節で小学校第6学年「新しい日本へのあゆみ」の授業を対象として、授業分析の具体について論じた。そして、それぞれの節は、「単元の構成」「本時の授業展開」「授業分析」「分析結果の批判・検討」「新たな授業への視点」から構成される。その分析結果から、意志決定型社会科授業の課題を導き出し、新たな社会科授業構成理論を提案した。さらに、この授業構成理論に基づいた小学校社会科授業モデルを考案し、このモデルを用いた授業実践と授業分析モデルによる評価・改善から授業構成理論の修正を行った。

## 第5章 授業分析を生かした協働提案型社会科授業モデルと授業分析

第1節において、小学校第4学年「ごみのしまつと活用～食品の廃棄を考える～」、第2節において小学校第6学年「わたしたちの願いを実現する政治～高齢者福祉を考える～」の授業を対象として、協働提案型社会科授業モデルの改善案による授業に対する授業分析の具体について述べた。そして、それぞれの節は、第4章における協働提案型社会科授業モデルに対する課題解決を図った「単元の構成」「本時の授業展開」「授業分析」「分析結果の批判・検討」「新たな授業への視点」から構成される。その分析結果から、より効果的な協働提案型社会科授業モデルを提示し、その有効性を明らかにした。

### 終章 研究の成果及び課題

意志決定型社会科授業を対象とした授業分析は、社会科授業において学習者が何をどのように学び取ったかを明らかにすることを可能とした。さらに、学習者と授業者の発話をとおした関係から、授業者の発言が有効であるか、改善の余地があるか、あるとしたらどのような内容かについての具体的な示唆を可能とし、新たな授業分析モデルを提起した。今後は、多くの分析事例をもとに、授業改善に生かすことが可能な分析方法へと改善を図ること、協働提案型社会科の授業実践の積み重ねと授業分析により、「協働提案型授業モデル」の構築を図っていくことが課題である。

#### (2) 審査経過

本研究は、これまでの行われてきた「意志決定型社会科授業」の成果をもとに、公民として社会問題に対して価値判断・意志決定できる能力を育てることが可能となる新たな社会科授業構成論を提案することを目的としたものである。そこで、意志決定型授業と目される授業を対象とした授業記録を元に、授業者が児童の発言や記述などの表現の内容から意志決定カテゴリーを指標とした授業分析方法を開発した。さらに、授業評価理論から得られた知見を基に、情報量が多く、複雑で、日々高度で専門的な内容となっていく現代の社会問題を児童が理解し、解決を図っていくことが可能な「協働提案型社会科授業」を提案した。この学習では、一人で問題についての考えを構築する場面と集団において意見交換する場面とが用意されていて、お互いの意見が開示されていて常に自分の考えと比較検討できる活動と同じ考えの者が集まり意見交換して共通認識する場面で学習がなされ、続いて違う考えの者が集まり意見交換を行い自分の意見を反省的に振り返り修正する活動を設定されている。

以上のように、本研究は、児童の発話やポートフォリオなどから「意志決定カテゴリー」を視点として価値判断・意志決定の根拠をGTMAにより明示化することができた。このことによって、事後検討会において、「授業コミュニケーション」を対象とした授業反省を可能とした。また、授業評価を基に授業構成理論を提案したことは、新たな意志決定型社会科授業を可能にした。これらの点から、本研究は、授業評価及び授業構成の理論研究と授業実践との連携を目指したものであり、社会科授業実践の改善に大きく貢献するものであると高く評価できる。

#### (3) 審査結果

以上により、本審査委員会は、小野間正巳の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。